

平成30年度 県立病院を良くする会 次第

日 時 平成30年10月26日（金）
午後3時から
場 所 徳島グランヴィリオホテル
1階 ヴィリオールーム

1 開 会

2 議 事

- (1) 会長・副会長の選任について
- (2) 徳島県病院事業経営計画の取組状況について
- (3) 各県立病院の取組状況について
 - ・ 中央病院
 - ・ 三好病院
 - ・ 海部病院

3 閉 会

【配付資料】

- ・ 資料1 徳島県病院事業経営計画の取組状況
- ・ 資料2 徳島県病院事業経営計画の取組状況の評価について
- ・ 資料3 各県立病院の取組状況について

徳島県病院事業 経営計画の取組状況

平成30年10月26日
県立病院を良くする会資料

1

1 「グループ力の強化」に向けた取組

広域的な救急医療提供体制の整備 (資料2 p2)



◆「ドクターヘリ」の運行

「助かる命を助けるべく」、
県内のみならず「関西広域連合管内」をはじめ、
県域を越えて運行 平成24年10月～

- ・平成29年度の出動件数

499件（前年度から56件増加）

- ・H24.10～H30.3末までの出動件数

2,279件（1日平均約1.3件）

◆「ホスピタルカー」の導入

医師等の医療スタッフが同乗し、
より安全・確実に患者の病院間搬送を行うため、
平成29年10月から導入

- ・平成29年度実績 (H29.10～H30.3)

35件（迎え搬送3件、送り搬送32件）



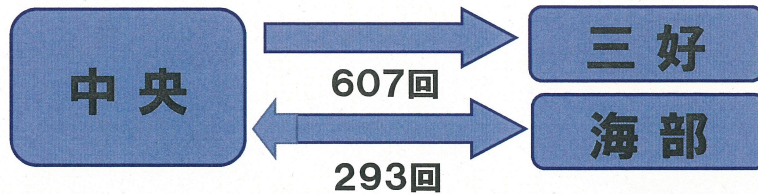
2

医師の「確保」と「育成」

(資料2 p 2)

◆ 県立3病院間の相互応援診療

平成29年度は、**「13診療科」の医師が「900回」診療応援**



＊「専門外来」等に従事

◆ 「中央診療部門」の医師養成

平成29年4月から徳島大学・寄附講座「麻酔科診療部」を新設

・中央病院「全身麻酔手術 (H29)」は、**2,926件 (前年度から62件増)**

＊県立病院をフィールドワークとする徳島大学の寄附講座を7分野に設置

(総合診療医学)(ER・災害医療)(外科診療)(産婦人科診療)(小児科診療)
(脳神経外科診療)(麻酔科診療)

3

◆ 新たな「専門医プログラム」への対応

(専門医資格取得のためのキャリアを継続できる体制整備)

平成30年4月開始の「新専門医制度 (19診療科)」への対応状況

- ・中央病院 基幹施設として 4診療科 (総合診療・内科・精神科・救急科)
連携施設として 17診療科 (リハビリと臨床検査を以外の診療科に対応)
- ・三好病院 連携施設として 13診療科 (総合診療・内科・外科・整形外科・脳神経外科・救急科など)
- ・海部病院 基幹施設として 1診療科 (総合診療)
連携施設として 5診療科 (総合診療・内科・整形外科・脳神経外科・皮膚科)

◆ 新築移転した海部病院内に「地域医療研究センター」を充実整備

(地域医療を担う「若手医師」の育成拠点)

- ・平成29年度には、徳島大学医学部 (5年生) の学外臨床実習として
「約100名」を受入れ



4

スペシャリストの養成

(資料2 p3)

◆「専門・認定看護師」の計画的養成

平成30年9月現在の資格取得者数

- ・専門看護師 1名(がん看護) *今年度1名が研修
- ・認定看護師 28名(15分野) *今年度8名(5分野)が研修

*救急看護、感染管理、皮膚・排泄ケア、緩和ケア、集中ケア、糖尿病看護、がん化学療法看護、がん性疼痛看護、がん放射線療法、小児救急看護、脳卒中リハビリテーション、摂食・嚥下障害、新生児集中ケア、認知症看護、精神科

医師・看護師等の「勤務環境」の改善

(資料2 p3)

◆医師の負担軽減のため「医師事務作業補助者(医療秘書)」を増員

・H28(44名)→H29(51名)→H30(55名)

◆院内保育所(中央病院 やまもも保育園)の運営

- ・定員80名(うち徳大病院枠10名)
- ・年中無休(夜間保育を実施)



5

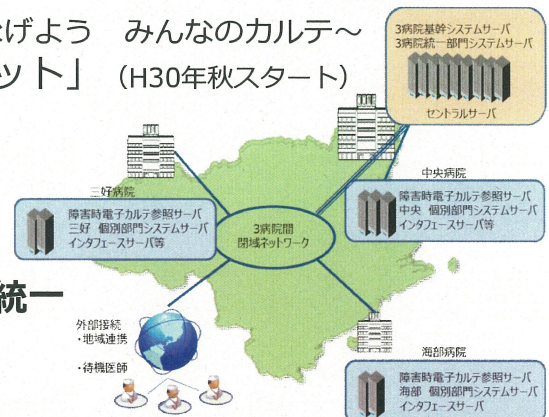
ICT(情報通信技術)の活用

(資料2 p4)

- ◆「阿波・あいネット」への参画 ~つなげよう みんなのカルテ~
徳島大学病院が進める「阿波・あいネット」(H30年秋スタート)
に県立病院として、積極的に参画

→県下全域の参画医療機関間で

同意患者の患者情報の共有が実現!



◆県立3病院・病院総合情報システムの統一

- ・平成30年10月29日から
新システムの稼働開始

遠隔診療(情報通信機器を用いた診療)と診療報酬上の評価

	診療形態	診療報酬での評価
医師対医師 (D to D)	情報通信機器を用いて画像等の送受信を行い特定領域の専門的な知識を持っている医師と連携して診療を行うもの	・遠隔画像診断 画像を他医療機関の専門的な知識を持っている医師に送信し、その読影・診断結果を受信した場合 ・遠隔病理診断 標本画像等を他医療機関の専門的な知識を持っている医師に送信し、診断結果を受信した場合
医師对患者 (D to P)	医師が情報通信機器を用いて患者と離れた場所から診察を行うもの	・電話等による再診 患者の病状の変化に応じ療養について医師の指示を受ける必要の場合であって、当該患者又はその看護に当たっている者からの医学的な意見の求めに対し治療上必要な適切な指示をした場合
	情報通信機能を備えた機器を用いて患者情報の遠隔モニタリングを行うもの	・心臓ペースメーカー指導管理料(遠隔モニタリング加算) 体内植込式心臓ペースメーカー等を使用している患者に対して、医師が遠隔モニタリングを用いて療養上必要な指導を行った場合

◆中央病院・放射線科専門医による 三好・海部病院のCT・MRI画像の 「遠隔読影」の実施

・平成29年度の実績

三好病院 約12,000件
海部病院 約3,000件

◆中央病院・糖尿病専門医による 海部病院医師と連携した糖尿病患者 への「遠隔診療」の実施を検討

医療機械等の共同購入の推進

(資料2 p4)

評価：努力

主要指標	H26年度 (計画策定時)	H29年度 実績値	H32年度 目標値
医薬品の採用品目数 【県立3病院全体】	1,869 品目	1,740 品目	1,000 品目以下
医療材料の共同購入品目数 【県立3病院全体】	168 品目	193品目	250品目

今後の取組

「3病院は3つで1つ」のもと、それぞれの品目毎に採用数と費用対効果等を再検証し、「同種同効医薬品の統合」「診療材料の標準化」を推進する。

※平成29年度の県立3病院・徳島大学病院・鳴門病院との共同購入効果

- ・医薬品 薬価ベースでの削減額 **3億8,500万円**
- ・診療材料 徳島大学病院との連携による473品目の共同調達効果
年度換算で**8,314千円**

7

2 「医療機能の分化と連携の実現」に向けた取組

地域医療連携の充実

(資料2 p5～6)

◆全国トップクラスの逆紹介率

中央病院では、

逆紹介率185%

(紹介率88%)と、

全国トップクラスであり、
着実に地域の医療機関との
役割分担を推進

主要指標		H26年度 (計画策定時)	H29年度 実績値	H32年度 目標値
紹介率	中央病院	80%	88%	90%
	三好病院	40%	51%	60%
	海部病院	29%	16%	40%
逆紹介率	中央病院	139%	185%	180%
	三好病院	97%	90%	120%
	海部病院	33%	35%	40%

◆訪問看護・訪問診療の推進

海部病院では、

平成21年度から訪問診療・訪問看護を実施

・平成29年度実績

訪問診療 164件

訪問看護 780件

在宅看取り 20件



8